

新年度が始まりました。新しい環境で、新しいスタートを切られた方も多いと思います。私たちスタッフは変わりませんが、心新たに取り組んでいます。現在会員登録数 2,284 人さま。次号は5月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 80

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 記念展示「マンガを楽しもう！」

インターネットでマンガについて知ったり、お気に入りのマンガを探したりできるサイト「マンガのひみつ大冒険！」の公開を記念して、サイトに掲載のマンガの中から国際児童文学館所蔵作品を展示する「マンガを楽しもう！」展を開催しています。紹介している作品の一部は、国際児童文学館内で読んでいただくことができます。

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

期 間：開催中～6月28日（水）午前9時～午後5時

休館／毎週月曜・第2木曜、6月6日（火）～9日（金） ・入館無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 /

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

ウェブサイト → <http://manga.iiclo.jp/>

（平成28年度子どもゆめ基金助成活動）

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Aya's Talk

『あたしのクオレ』上・下 ビアンカ・ピッツォルノ/作 関口英子/訳
本田亮/さし絵 岩波少年文庫 岩波書店 2017年2月
対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：1949年～50年のイタリア、サルデーニャ島を舞台にした著者の自伝的作品。物語を書くことが好きなプリスカ、おばあちゃんと住んでいるエリザ、画家志望のロザルバが4年生になって新任のスフォルツァ先生に出会ったところから、1年間を描く。先生は、お金持ちの子どもをひいきし、高圧的で権威主義的であるため、3人は反抗を企てる。

A：スフォルツァ先生の悪役としての徹底ぶりが、この作品をおもしろくしていると思いました。

Y：ひどい先生ですね。貧しい子どもたちを徹底的にいじめ抜き、お金持ちの子どもは自分の家で勉強を教えるほどに甘やかす。プリスカたちは先生のひどさを何とか大人に訴えようとしますが、大人は理解しない。腹立たしさを覚えながら、そこにリアリティを感じて読みました。

A：著者の分身と思われるプリスカは、お父さんと同じぐらいの年齢のエリザのおじさんに恋をしているおませさんですが、想像豊かないたずらを次から次へと考え出すところがおもしろかったです。

Y：両親が亡くなっているエリザが家族中から愛されて甘やかされていたり、ロザルバにはちょっと変わった画家のお母さんがいたり、先生との攻防を軸にしながらも3人の少女のユーモラスな日常も楽しみました。

A：1年間が月ごとの章になって、最後が作文で終わっている点はデ・アミーチスの『クオレ』と重なります。

Y：日本語のタイトルは『あたしのクオレ』ですが原題も同じですか。

A：「あたしのクオレの声を聞いて」です。クオレには「心」、または「心臓」という意味があります。

Y：デ・アミーチスの作品にある教育的な部分がなく、大人に対する不信感がしっかりと書かれているところが、爽快で、アミーチスの作品を認めながらも反発も読み取れます。違う角度から「正義」を問うていると言うこともできます。

A：『クオレ』のエンリコの両親と、プリスカの両親の差も大きいですね。

* 今回のゲストはイタリア語の翻訳家の、よしとみ あや（A）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第20回「注文の多い料理店」

「主題」のありか

小・中・高校の国語では、宮沢賢治の童話や詩が教材になっています。前回メルマガ(N0.79参照)の「やまなし」は、小学6年生の教科書。「やまなし」には、情景が目にかぶような、すぐれた表現がたくさんある。心に残る表現はあったらどうか。」光村図書『国語』6年の学習の手引きの書き出しです。

「注文の多い料理店」は小学5年生です。「物語をおもしろくしている表現

のくふうをさがし、…」)、これは、東京書籍『新しい国語』5年の学習の手引き。いずれも、作品の「表現」に注目されていますが、作品の「主題」は、どうあつかうのでしょうか。

「注文の多い料理店」の主題を考えると、手がかりになってきたのは、童話集『注文の多い料理店』(1924年)が刊行された際の広告ちらしです。自費出版でしたから、ちらしも、賢治自身が作ったものと考えられます。

〈二人の青年紳士が獵に出て路を迷い、「注文の多い料理店」にはいり、その途方もない経営者からかえって注文されていたはなし。糧に乏しい村の子どもらが、都会文明と放恣な階級に対するやむにやまれない反感です。〉

このことばを頼りに考えていくと、「都会文明と放恣な(勝手気ままでだらしがない)階級」の代表として登場する二人の若い紳士が、自然界の代表である山猫にだまされ、批判されていく話に見えてきます。

ところが、子ども読者が紳士を批判される存在と読むのは、ずいぶんむずかしいようです。「紳士? あ、獵師?」—かつて、私がインタビューした小学6年生は、作中の「紳士」と「獵師」を混同していたようです。まったく対比的に描かれているのですが…。「紳士」が「すっかりイギリスの兵隊のかたちをして、ぴかぴかする鉄砲をかついで」いるのに対し、「専門の獵師」は蓑帽子をかぶっています。これは、西洋料理店に迷い込んで殺されそうになる「紳士」たちが、「獵師」の団子に救われるという、たいへん皮肉な話です。

「紳士」を批判される存在と捉えられないとすると、子どもたちは、主題に気づくのがむずかしいかもしれません。それでも、紳士たちが扉をつぎつぎに開けていくストーリーを大いに楽しむのです。だからこそ、「表現」から「主題」に近づく指導が行われているのでしょうか。(馬車別当)
(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 80

その10 学校でのおはなし会(12) 学校図書館のお手伝い

今回は、おはなし会から少しはずれますが、よく問い合わせのある「学校図書館の仕事を手伝って欲しいと言われたが、どうすればいいか」について考えたいと思います。

昨今、市町村で学校図書館に司書が配置される動きもあり、未配置の学校や学校司書の日数や時間数が少ない学校では、学校図書館の「人」に対する要求が高まっています。子どもたちが本を読みたい、何かを調べたいと思った時に身近に本がある学校図書館が開館し、機能していることはとても重要です。

本のことを知っていて子どもの読書に関心のあるおはなし会ボランティアのメンバーに学校から声がかかるのは自然の成り行きのように思われますが、落とし穴もありそうです。

学校図書館に必要な「人」とはどんな人かを考えると、学校図書館の運営ができる人、資料の収集、整理をし、利用者のプライバシーを守って貸出を行うことのできる人、学校図書館に読書センター機能、学習・情報センター機能を持たせることのできる人となり、それには専門的な知識が必要で、常時図書館で継続的に働ける人が必要であることがわかります。

そこまでできなくても、開館しているだけでも、本が整理されるだけでも、鍵のかかった学校図書館よりはよいではないかと考えられるかもしれませんが、いったん、ボランティアの方が入って機能し出すと、学校司書がいなくてもボランティアでいいという考えになってしまい、長い目で見ると、学校にとって望ましいとはいえない図書館運営につながる可能性が多分にあります。

そこで、「学校図書館の仕事を手伝って欲しいと言われたら」に対する私の答えは「心を鬼にして、断り、学校司書を配置してほしいとお願いする」です。実際にボランティアとして学校図書館運営に携わった人が、これはボランティアでできる仕事でも、やるべき仕事でもないと感じかれ、学校司書の配置を主張されるようになった事例もあります。学校図書館や学校司書については現在、文部科学省などから、多くの情報や資料が出されていますので、ぜひ、ご覧になって考えてみてください。

* 次号は「その 10 学校でのおはなし会 (13)」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《4》 行って来ました！

現在は京都高島屋で4月23日まで開催中の巡回展「デビュー50周年記念展 池田理代子『ベルばら』とともに」に行ってきました。

展示は「華麗なる「ベルサイユのばら」」、「歴史ロマンを描く」、「音楽と「オルフェウスの窓」」など6つのテーマで構成され、初期から現在までの原画や資料200点以上が展示されています。

やはりいちばん目を奪われたのは「ベルサイユのばら」のコーナーです。たくさんの原画がストーリーに沿って並べられています。セリフが書きこまれているので、読んだ記憶をよみがえらせながら見ていきました。髪の毛のなびき方や服装、背景など、繊細な線で描きこまれていてとてもきれいです。瞳のなかに星がいっぱいこの頃の目の描かれ方が好きだなと思いました。カラー原画のアントワネットの深いピンクのドレスはバラを思わせませう。宝塚歌劇の歴代の「ベルばら」の写真パネルや衣装も展示され、撮影できるコーナーもありました。

冒頭には、雑誌デビューの前の貸本マンガでのデビュー作「由紀夫くん」なども紹介されていて、初期のころから原爆症や性同一性障害など社会問題を扱った作品を描かれていたことを知りました。音楽学校を舞台にした作品「オルフェウスの窓」もある池田理代子さんはマンガ家として成功してから

音大で学び、声楽家としても活躍されています。歴史ものは受けないと言われながら「ベルばら」を描いたことを含めて、池田さんの強い意志を持った生き方に共感しました。

来場者は私と同年代や少し上の女性がほとんどで、憧れや懐かしさいっぱい表情で見入っていました。当財団のインターネットサイト「マンガのひみつ大冒険！」でも「ベルサイユのばら」をキャラクターや見開きの画像とともに紹介しています。ぜひ、合わせてご覧ください。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 第27回箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：募集中～5月14日（日）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）

・一般の部A部門（当コンクール入賞経験者）

・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会 / 人と本を紡ぐ会

問合せ：箕面市立西南図書館「モモ」人と本を紡ぐ会事務局

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『あたしのクオレ』上・下巻を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.80プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は5月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

「願わくば 花の下にて 春死なん ——」と西行法師が詠んだように、義母が94歳の天寿を全うした。祝うかのような佐保川堤の満開の桜の樹上に、微笑む顔が見えた、気がした。

近親者だけでの見送りを済ませ、これで子としての役割を全て終えた安堵とともに、次に一番近いのは、自分だと認識を新たにした…。1週が経ち、桜は風に吹かれ、はらはらと散り急いでいた。(A)

散る桜 残る桜も 散る桜 良寛

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで

お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
